

学ぶべき要素多い『時間割引率』「不確実時代の生き方セオリー (9)」

(産経新聞 夕刊 (大阪) 2008 年 10 月 2 日掲載)

米国発金融不安だ、世界同時不況だと世間は騒いでいますが、こんなときこそ生活者は長い目で物事を見る目を養う必要があります。

長期的視点で物事を判断する場合、時間割引率（または時間選好率。以下割引率）という考えが重要になります。例えば今 1 万円手に入るのと、1 年後に 1 万円手に入るのではどちらが良いかと尋ねると、多く人は今の 1 万円の方を選びます。もしある人にとって今の 1 万円と 1 年後の 1 万 5 0 0 円が同じ価値を持つ場合、 $10500 \div 10000 = 1.05$ (105%) で、5% が妥当な割引率だと考えます。

実際、今 1 万円を貯金すると 1 年後には利息がつくわけですから、1 年待つならその分余計に欲しいという思いは理解できます。市場利子率が即、割引率ではありませんが、割引率に対して一つの根拠を与えています。

この割引率は結果として将来より現在を重視する働きがあるともいえます。例えばある開発事業で今 1 万円投資をすれば、1 年後に 1 万円の成果が期待できるとします。成果が出るのは 1 年後なので割引率で割り引かれ、現在の価値で言うと 1 万円以下になってしまいます (割引率 5% なら 9 5 2 4 円。表 (2))。その結果、それは採算に合わない投資だと評価されてしまうのです。

割引率は複利で累積的に影響します。従って次の世紀のことまで考えるような環境問題では、割引率を 2% と小さくとしたとしても、平準な気候など 1 0 0 年後の環境の価値は、現在の同じものと比べて 1 4% 程度にしか評価されません (表 (2))。その結果、遠い将来に成果が期待できるような取り組みを今から始めることは難しくなります。それは現代人のエゴではないか、環境のような課題に関しては、割引率を 0% にして、現在と将来の価値を同等に扱うべきだ、と主張する人もいます。

割引率は長期的視点が必要な生活設計には不可欠の要素です。時間の流れの中で人が価値をどう評価するのかにかかわるという意味で奥深く、多くの学ぶべき要素を含んだ考え方なのです。

(大阪ガス エネルギー・文化研究所主席研究員 豊田尚吾)

表 利子の複利効果

①現在の10,000円は利子率の複利効果で増えていく (円)

利子率	現在	1年後	2年後	5年後	10年後	50年後	100年後
2%	10,000円	10,200	10,404	11,041	12,190	26,916	72,446

②逆に×年後の1万円を現在の価値に直すと、時間割引率で割り引かれ小さい値になる (円)

	現在の価値	1年後の1万円を現在の価値で表	2年後の1万円を現在の価値で表	5年後の1万円を現在の価値で表	10年後の1万円を現在の価値で表	50年後の1万円を現在の価値で表	100年後の1万円を現在の価値で
時間割引率(r)	-	$1万円 \div (1+r)$	$1万円 \div (1+r)^2$	$1万円 \div (1+r)^5$	$1万円 \div (1+r)^{10}$	$1万円 \div (1+r)^{50}$	$1万円 \div (1+r)^{100}$
1%	10,000円	9,901	9,803	9,515	9,053	6,080	3,697
2%	10,000円	9,804	9,612	9,057	8,203	3,715	1,380
5%	10,000円	9,524	9,070	7,835	6,139	872	76
10%	10,000円	9,091	8,264	6,209	3,855	85	0.7

※例えば時間割引率が5%のとき、1年後の1万円を現在の価値で表すと、 $10,000 \div (1.05) = 9,524$ 円

時間割引率が2%のとき、100年後の1万円は現在の価値で表すと、 $10,000 \div (1.02)^{100} \doteq 10,000 \div 7.245 \doteq 1,380$ 円(元金1万円の約14%)となる